

L'OCCITANE
EN PROVENCE

Melvita

SUSTAINABILITY

NEWSLETTER

6

2025 / Vol.5

新たな芽吹きと共に



Present Tree® in くまもと山都 IV 活動報告 / LEAF東京活動報告 / ロクシタン サステナ月間 /
RACE FOR SUSTAINABILITY / チャリティーランイベント報告 /
サステナ月間 強化施策 / 100万人のキャンドルナイト /
ビーチクリーン部 活動報告 / コーヒー2050年問題



森と地域を共に育てる



新緑が芽吹く春。ロクシタンは認定NPO法人 環境リレーションズ研究所と共に、今年も日本の有機農業発祥の土地、熊本県山都町にて植樹を行いました。植栽地の風土に合わせて選定された多様性ある木々の苗をひとつひとつ丁寧に植え、より自然溢れることを願い活動が無事終わりました。

今号では2025年4月から6月までに実施したCSR活動について掲載をいたします。





熊本・山都町に1,100本を寄贈 未来の森を育てる「Present Tree®」 プロジェクトに共鳴して

ロクシタンは、CSR活動理念「ロクシタンの約束」において掲げる「植物の多様性を保護」「生産者をサポートする」という価値観のもと、2021年より継続して熊本県山都町の植樹プロジェクト「Present Tree® in くまもと山都」に参加しています。

今年もその想いを行動に移し、認定NPO法人 環境リレーションズ研究所が展開するこのプロジェクトへ1,100本の苗木を寄贈しました。地域と協働して自然を育むこの活動は、持続可能な社会への一歩となるものです。



(上) 今年植樹は有機栽培 下田茶園の隣の棚田

(中) 植樹をした苗木

(下) 未来の森の多様性を考慮して準備した苗木



5年目を迎えた植樹イベント「Present Tree® in くまもと山都 IV」

2025年春、棚田と茶畑の美しい風景が広がる山都町・白糸台地を舞台に、植樹イベント「Present Tree® in くまもと山都 IV」が開催されました。今年はロクシタン社員11名がボランティアとして参加。地元住民、高校生、竹内信義・熊本県副知事、坂本浩・山都町副町長など総勢約60名が集い、協力しながらヤマザクラやコナラなどの広葉樹1,100本を手植えました。「Present Tree in くまもと山都Ⅰ」および「Ⅲ」は、2023年に環境省より「自然共生サイト」に認定されており、特別天然記念物のニホンカモシカや絶滅危惧種の貴重な生物の生息も確認されています。参加者は「植えるだけでなく、地域のSDGsの取り組みや自然との関わりを深く学べた」と語り、環境への理解を深める貴重な体験となりました。



(左) 雄大な棚田を眺めながらの植樹



(中) 斜面にバランスよく植樹



(右) 穴を掘り、苗を植える

5,186本の森へ 自然と共に育つ想い

ロクシタンはこれまでに、このプロジェクトを通じて合計5,186本、約2.07ヘクタールの森づくりを支援してきました。豊かな森が育つことで、植物の多様性が担保され、そこに様々な生き物が生息します。「Present Tree® in くまもと山都」のプロジェクトを通じて、未来に続く豊かな森づくりが着実に進んでいます。



2023年に国宝に指定された通潤橋

熊本県山都町 自然と共生する 「SDGs未来都市」

有機農業発祥の地としても知られる山都町は、2021年に国から「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。中山間地域の自然と農業文化が今も息づくこの町は、全国に先駆けて持続可能な地域づくりのモデルケースを体現しています。ロクシタンはこの町の理念に深く共感し、自然と地域を守るための支援を続けています。



「Present Tree®」プロジェクト

「Present Tree®」は、森林再生と地域活性化の両立を目指す認定NPO法人 環境リレーションズ研究所が運営するプロジェクト。都市部の支援者（“里親”）と共に、地元植生の広葉樹を植え、豊かな生態系を持つ里山を再生しています。山都町では2020年より森林整備協定を結び、スギの皆伐跡地などを活用した新たな森づくりが進められています。

人と自然が共に歩む未来へ

「私たちの活動は、単なる環境保護ではなく、“共に変化を育む”ことを目指しています」。ロクシタンはこの理念のもと、これからも一人ひとりの想いをつなぎながら、自然と寄り添う持続可能な社会を育んでいきます。



森林組合の方より植樹の方法を伺う



リサイクルの
クイシティ

AEON 英
L'OCCTANE
Foundation



渋谷



原宿

街をきれいに、未来を守る — 渋谷・原宿の美化活動レポート



2025年度、初回の美化活動(LEAF, L'OCCITANE Environmental Action Forceの略)は渋谷と原宿で大規模に行いました。今回は過去最高の190名が参加し、街の清掃に汗を流しました。渋谷では数多くの団体が日々清掃活動を行っていますが、実際に歩いてみるとまだまだゴミの拾い甲斐があることを実感しました。

この活動は、ロクシタンの約束「地球の自然にやさしく」に基づいた日本独自のアクションの一環です。

世界的な環境問題として、毎分40トンものプラスチックゴミが海に流れていると言われていますが、その多くは街から流れ出たもの。街で捨てられたペットボトルや空き缶、プラスチックゴミは、風や雨によって排水溝に流れ込み、やがて川や海へと到達します。特に、渋谷のような人が集まる繁華街では、こうしたゴミの量も多く、放置されたままだと、海洋汚染の原因になってしまうのです。このままでは、海洋生態系への影響がますます深刻化し、魚やウミガメ、海鳥たちが誤ってプラスチックを食べてしまう危険性も高まります。だからこそ、街のゴミを拾うことが海洋汚染を未然に防ぐ重要なステップなのです。



タバコの吸い殻やゴミが多く散見された

ゴミ拾いの先にある未来

参加者たちは、仲間と協力しながら一つ一つのゴミを拾い集め、活動終了後には達成感に満ちた表情を見せていました。清掃活動はただ街をきれいにするだけでなく、「この地球をもっと大切にしたい」という気持ちを育てるきっかけにもなります。

渋谷・原宿の美化活動は、単なるゴミ拾いを超えて、環境に対する意識を高める大切な時間になりました。今後も多くの社員と共に、会社全体で環境保護に取り組んで参ります。



渋谷・原宿で回収したゴミを分別した様子





RACE FOR SUSTAINABILITY

みんなでラン&ウォーク!

目標達成でロクシタンが
あなたの代わりに寄付

L'OCCITANE
EN PROVENCE

一人一人の小さなアクションが未来につながる。
「ロクシタン サステナ月間」

創設以来、人や自然を守る活動に取り組み、時代に先駆けていち早くサステナビリティを啓蒙し続けてきたロクシタン。今年も、地球や自然、未来のことを皆さんと一緒に考える「サステナ月間」を6月に実施しました。また、今年はロクシタンのサステナビリティ活動に共感してくださった、俳優・モデルの石田ニコルさんと元競泳日本代表、ロンドンオリンピックメダリストの入江陵介さんを「ロクシタン サステナ月間」のアンバサダーとしてお迎えし、より深く・広く発信しました。



その一步が未来を変える。

みんなで10万kmを達成して、
美しい地球を守る。

6月はロクシタンのサステナ月間

RACE FOR SUSTAINABILITY

その一步が未来を変える

みんなのラン/ウォークの距離 7,581人が参加 65,134.406km走りました

今年のメインコンテンツは、走るまたは歩く距離が寄付につながる、誰でも参加できるアクティビティ「L'Occitane Race for Sustainability」を実施しました。ロクシタンのホームページにご自身の走行距離を入力いただき、参加者皆さんの走行距離の合計が10万kmを達成すると、ロクシタンが掲げるCSR活動のパートナーであるNPO団体に総額1,000万円を寄付する、という企画です。これまでも社内での活動としてスポーツ活動を通じて、活動目標に達したら寄付を行う、という取り組みは行ってきましたが、お客様にもご参加いただき、寄付を目指すことは初めての取り組みでした。非常に多くの方にご賛同いただき、6月27日現在で6.5万kmを達成することができています。目標達成に向け、ラストスパート走り抜けます。

参加方法

STEP1

それぞれラン/ウォークを実施し、アプリなどで距離を計測しよう！



STEP2

1ヵ月を通して、何度でも※1参加しよう！
みんなのラン/ウォークの距離が目標の10万kmを達成したら、ロクシタンが地球を守る活動をしている団体へ寄付※2します。

距離とニックネームを登録して参加する！

km m ニックネーム 参加する

※1 参加登録はお一人様1日1回、42.195kmまで
※2 ロクシタンの約束に沿った活動をしているNPO団体へ、総額1,000万円を寄付します。

STEP3

参加登録すると、参加証バッジが発行されるよ！ バッジをSNS投稿をして、他の人の参加を促そう！





ロクシタン初！チャリティランイベントを実施。

ロクシタンは、6月14日（土）に豊洲ぐるり公園にて、一般募集でエントリーした約200名が参加したチャリティランイベントを実施しました。

この日は「サステナ月間」アンバサダーである石田ニ科尔さんと入江陵介さんも参加し、一般の方と一緒にランを楽しみました。イベント参加者全員の走行距離は432.5kmを達成し、「L'Occitane Race for Sustainability」の寄附に貢献しました。

開会セレモニーの後、ラン＆ウォークがスタート。参加者からは「海を見ながら走るのは、気持ちの良い朝活になりました。」「健康にもいいし、走ったことが寄付になるなんて素敵なイベント。」「愛用しているロクシタンが、こんなにもいろんなサステナ活動をやっていることを知らなかった、ますます好きになりました。」などの声があがりました。





エコレフィル プラスチックを削減する環境に優しい方法

南仏オートプロヴァンスをはじめとする豊かな自然や、そこから生まれる製品を作り出す人々と技術を守ることを使命としてきたロクシタン。メゾン創設時から空のガラスボトルを店舗で回収するシステムを設けるほど、約50年前から現在に至るまで地球環境へ配慮した様々な取り組みを実施してまいりました。

サステナ月間の一環として、製品のご購入を通じてプラスチック使用量削減を提案する「エコレフィルボーナス キャンペーン*」を6/4(水)より実施しました。レフィル製品をお買い求めいただいたお客様に、ボーナスポイントをプレゼント。

(*6/30(月)まで。)

ロクシタンのシャンプーやコンディショナー、シャワージェルなどの製品では、お得で環境にもやさしい、詰め替え用のエコレフィルをご用意しています。レフィルの使用は、通常のボトルよりも65～90%プラスチック使用量を減らすことができます。

ロクシタンはこれからもお客様と共に、プラスチック使用量削減、空き容器回収プログラムを通じた循環に努めてまいります。

RACE FOR SUSTAINABILITY

その一歩が未来を変える。

みんなで1kgの削減を達成して、美しい地球を。



ロクシタンSHIBUYA TOKYO店

店舗での取り組み

マイボトル持参で二酸化炭素削減に挑戦

6月はロクシタンのサステナ月間。サステナブルな取り組みはロクシタン店舗でも強化しました。出勤時にマイボトルを持参し、二酸化炭素排出量の削減に貢献しよう、という企画を実施しました。

ロクシタン店舗スタッフ、エリアマネージャー、延べ688名が有志で参加。各自毎日ペットボトルを購入するのに比べ、マイボトルを持参することで、30日間で約1.55トンのCO2の削減となります。ペットボトルに換算すると、約13,000本削減出来、日本人1人当たりの年間CO2排出量の約20%に相当する削減量です。

ロクシタンは様々な活動を通じて、サステナブルな社会の実現を目指します。



ロクシタン 大阪高島屋店

ロクシタン 富山大和店



キャンドルナイト実施した際のSHIBUYA TOKYO店

資源の大切さを共に考える

2003年から有機食材宅配の大地を守る会の呼びかけで始まったムーブメント。
「100万人のキャンドルナイト」は、今年23年目。
毎年、夏至と冬至に、でんきを消してスローな夜を過ごすことを呼びかけてきました。

ロクシタンは2022年より協賛企業として参画しています。今夏も本社は20時消灯、路面店は20時以降はLEDキャンドルにて営業を行い、この活動に参加しました。

キャンドルナイトだけでなく、一日の終わり、おだやかに過ごす時間をキャンドルとともに過ごしてみませんか。



ビーチクリーン部 活動報告



海の漂流物から 見えること

花が咲き誇り、初夏の近づきを感じる4月中旬に大磯の照ヶ崎海岸でビーチクリーンを実施しました。大磯市が重機でビーチをキレイに清掃した後でしたが、非常に重い漁網や流木に混ざったプラゴミ、マイクロプラスチックがまだまだビーチに散乱していました。自然界に網も、プラスチックも存在しません。すべて人間が作り出したものです。海に浮遊するプラスチックごみを餌だと思い、食べてしまう海洋生物がたくさん存在しています。自然に感謝しながら、少しでも環境保全に貢献たいという想いでこれからもビーチクリーンを続けていきます。



ゴミの回収量

燃えるゴミ 合計 13.3kg

燃えないゴミ 合計 2.76 kg

(上)回収したゴミ・流木に混ざったプラゴミ
(下)回収したゴミとや成果を称えて

コーヒーの未来に警鐘

「2050年問題」と私たちの選択



私たちの朝を彩る一杯のコーヒー。

しかし、地球温暖化の影響で、2050年にはその一杯が贅沢品になるかもしれません。

地球温暖化がもたらすコーヒー栽培への影響

国際調査機関ワールド・コーヒー・リサーチ（WCR）によると、地球温暖化の進行により、アラビカ種の栽培適地が2050年までに最大75%減少する可能性があります。これは、気温や湿度の上昇、干ばつ、病虫害の増加などが原因です。ロブスタ種も同様に63%の減少が予測されています。

コーヒー産業が直面する三つの課題

1. 生産量の減少と品質の低下

コーヒーは繊細な作物で、特定の気候条件が必要です。気候変動により、これらの条件が満たされなくなり、生産量の減少や品質の低下が懸念されています。

2. 生産農家の貧困と離農

多くのコーヒー農家は小規模で、気候変動や価格の変動に対する耐性が低いです。収入の減少や生産コストの増加により、農家の生活は厳しくなり、離農が進む可能性があります。

3. 価格の高騰

需要が増加する一方で供給が減少すれば、コーヒーの価格は上昇します。特にアジア諸国での消費増加が影響を与えると予想されています。



解決への道：私たちにできること

1. 二酸化炭素排出量の削減

地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出を減らすことが重要です。再生可能エネルギーの利用や省エネルギーの推進など、個人や企業ができる取り組みがあります。

2. フェアトレードの推進

適正な価格での取引を行うフェアトレードは、生産者の生活を安定させ、持続可能な生産を支援します。フェアトレード認証の製品を選ぶことで、消費者も支援に参加できます。

3. 新種の開発と技術革新

気候変動に強い新しい品種の開発や、効率的な栽培技術の導入が求められています。研究機関や企業が協力して、持続可能なコーヒー生産を目指しています。

SDGsと農産業

コーヒー産業の課題は、他の農産業にも共通している点も多く、持続可能な開発目標（SDGs）とも深く関係しています。特に「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「気候変動に具体的な対策を」などの目標達成には、コーヒー産業を代表とする農産業の持続可能性が不可欠です。

私たちが日々楽しむコーヒー。その未来を守るために、今できることから始めてみませんか？一杯のコーヒーが、私たちにサステナブルな社会について考えるきっかけを与え、地球と人々の未来をつなぐ架け橋となるのです。

